

10. 愛知工業大学防災キャンパス構想企画書

正木和明・小池則満・内藤克己・木田健一・竹植匡・橋本崇

1. 防災キャンパス構想に至る経緯

- ①地域防災研究センター申請時に「本学を防災拠点研究対象とする」発想があった。
 - ・硬い地盤、高速道路に近い、小牧空港に近い、6000人の人材、等
- ②5年間のプロジェクト終了後、リニューアルした構想で取り組む事を決定した。

2. 構想の理念

- ①本学は長年にわたり地震防災研究に取り組んできた。
- ②「防災の愛工大」として高く評価されている。
- ③研究成果を地域のために役立てる使命がある。
- ④全国の大学のモデルとなるような構想を立てる。

3. 防災キャンパス構想の具体化

- ①キャンパスの耐震化（ハード面）：耐震補強等
 - ②防災対策の構築（ソフト面）：避難訓練等
 - ③防災研究の推進：地域防災研究センター＋研究科他
 - ④防災技術の展開：緊急地震速報の配信
 - ⑤防災教育の推進：防災マイスター養成講座から大学院防災コースの設置
 - ⑥地域貢献事業：愛知県との防災協定、大学消防団（地元消防団への参加）、ボランティア養成
 - ⑦産学官の連携：あいぼう会、防災マイスター養成講座
 - ⑧若手人材の育成：ポストドクトラル研究員採用、留学生受け入れ
- 今回の地震の教訓
- ・帰宅困難者への対応の遅れ（東京の私大の対応の遅れ）
 - ・災害時大学が拠点となる（東北工業大、東北学院、等）
 - ・小学校への教育が不足（全員助かった小学校の例）
- 本構想の成果も見られる
- ・マイスター卒業生は活躍してくれている
 - ・あいぼう会被災企業への支援

4. 今後の展開（戦略）

- ①防災拠点を前提としたキャンパスが要請される（小中学校だけではない）
- ②本学の構想を全国の大学に展開する
- ③外部資金の獲得（私大高度化推進事業、文科省補助金、等）
- ④「防災の愛工大」の評価拡大、入学者の増加

5. 愛知県との防災協定締結に向けての検討の承認

- ①23年度内締結に向けて協議を開始する
- ②実現可能な内容の検討

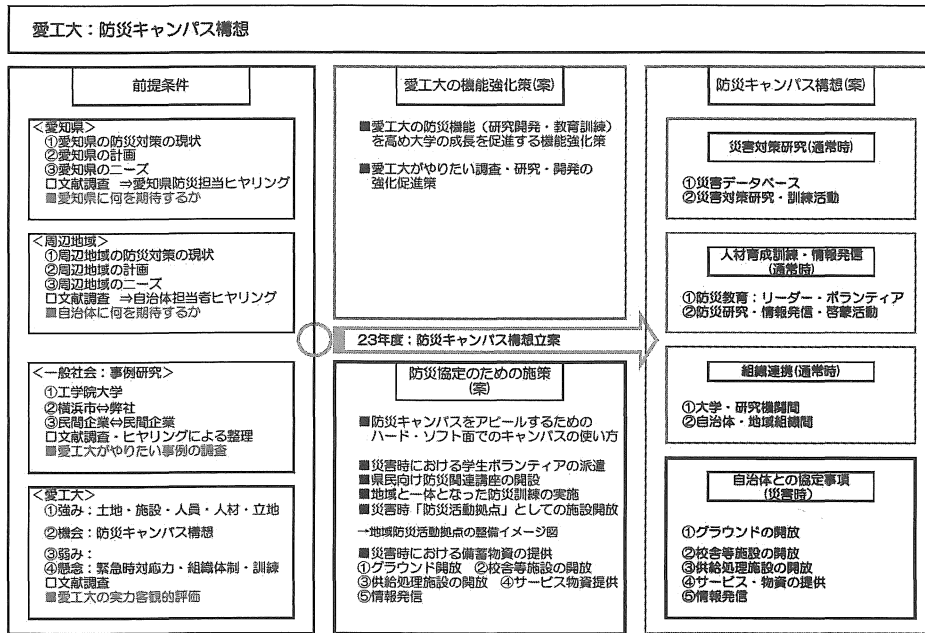


図1 防災キャンパス構想（全体イメージ図）

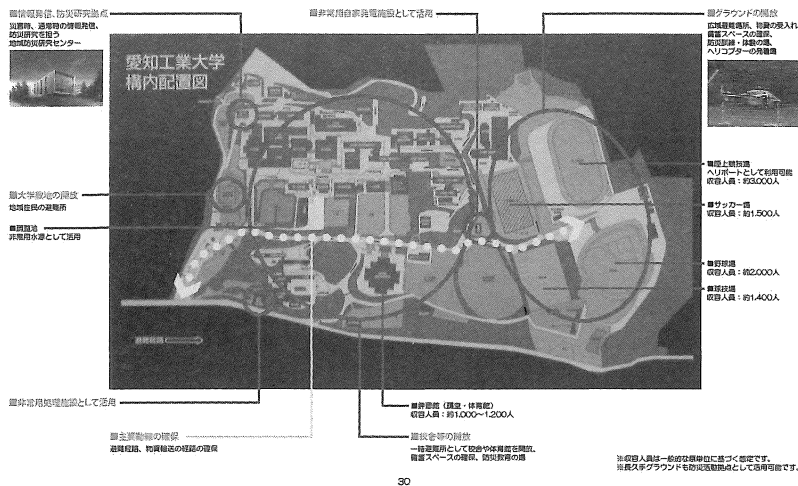


図2 防災キャンパス構想（八草キャンパスイメージ図）

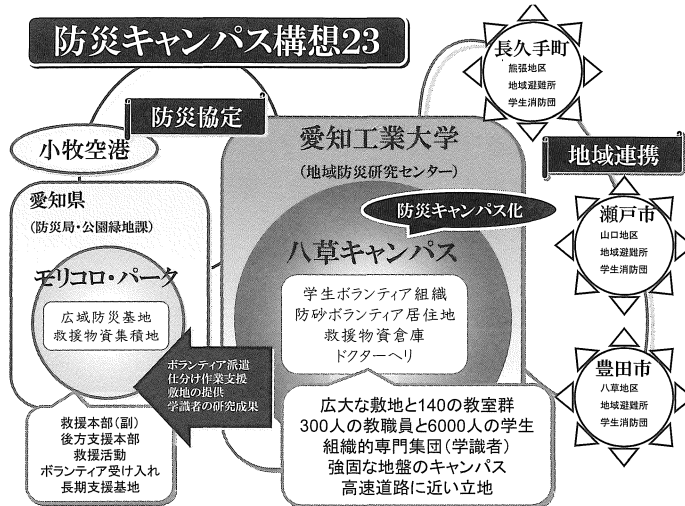


図3 防災キャンパス構想（愛知県、地元自治体との連携イメージ図）